

[佳 作]

「北方領土に対する想い」

北海道教育大学附属札幌中学校

1年 村山 廣記

北方領土とは、第二次世界大戦後にソ連（現在のロシア）が占領した歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四つの島の事です。

現在、日ロ両国が自国の領土だと主張し、ロシアが支配しています。日本とロシアの領有権の対立が「北方領土問題」となっています。

戦前、日本とロシアは何回か国境の条約を結んでいます。第二次世界大戦中、日本とソ連は条約を締結して、互いに中立しました。しかし、広島に原爆が投下されてからソ連は条約を破棄しました。やがて戦争が終わり、日本が降伏してもソ連は千島列島を南下し、北方領土を占領しました。それが、現在にまで至っています。

最近、ニュースで見たのが「北方墓参」と言うものです。「北方領土に先祖のお墓がある人が、お参りに行く」というものを取材していました。

お墓に行くには、ロシアの許可が必要で、政府が許可を得られたら船などで行くことができます。しかし、天候や政府の様々な思惑が生じて勝手に日程が変更されたりします。墓参者の気持ちや都合が考慮されることはありません。やっとの思いで島に上陸し、お墓に行こうとしたら、長い間全く手入れされていなかったのので背丈くらいの草が生い茂っていて、それを刈ることから始めないといけません。結局時間が足りず、お墓の前まで行けずに、草を刈り終えたところで慰霊式を行っていました。そして、短い時間の墓参が終わり船で北海道へ戻ります。

墓参者のほとんどが高齢で、後何回こういうことを続ける事が出来るかわからないので、不安そうにしていました。そして、その人たちは、先祖と同じお墓に入ることができないと思うので、それは大変辛いことだと思います。

これらの事を踏まえて僕が考えたことは、北方領土問題を簡単に解決する事はできないかもしれないけれど、北方墓参のような民間レベルの活動が増え、ビザなし交流のようなものが自由に行えるようになれば、日ロの関係が良くなっていくのではないかということです。

こういう問題は、当事者が高齢化したり亡くなったりするとだんだん風化して忘れられたり、金銭的な見返りがあれば、日本の領土ではなくても良いと言う考え方が出てくるかもしれません。しかし、島に居住していた人たちの気持ちを考えるとそれではいけないと僕は思います。彼らにとっては島が故郷であり、思い出の場所であるからです。

日本人として僕たちの世代もこの問題にきちんと向き合っていくことが大切だと思います。